

第3期プログラム期間中の各種取組の現況

1 第3期プログラムにおいて例示した「主な取組」に対する実施内容等

(1) 高田地区

| 区分 | 第3期プログラムにおける取組の例示 | 現況 | 実施内容等 |
|---------------------------|---|----|---|
| 基本方針1 商店街や店舗の魅力と利便性の向上 | ○イベント開催やサービス提供を通じた来街機会の創出 ・商店街、街なかイベントの開催 ・希少な商品や人気グルメ等の販売 ・商店街、店舗、拠点施設等利用者への特典付与 他 | ○ | ・本町商店街において様々なイベントを開催し、来街機会を創出。 ・ゆめカード事業による利用者への特典付与の実施。 |
| | ○時代の変化をとらえた若手店主による企画事業 ・将来を見据えたビジョンや商店街事業の検討・実施 ・若者や学生を街なかに呼び込む仕掛けの検討・実施 ・イベント広場の開放など商店街エリアの新たな利用目的の提案 他 | ○ | ・10年ビジョン検討会が「よるまるしえ」を開催。高田駅前のイルミネーション装飾により、若い世代の来街に貢献。 ・高田商業高校「Rikka」がオリジナルパンを開発、商店街で販売。 |
| | ○街に来やすい、滞在しやすい環境の整備 ・高齢者の居場所や若者の交流の場づくり ・休憩場所、待ち合わせ場所、トイレ等の提供 ・駐車場の利用環境の改善 他 | ○ | ・「ほっとステーション五番館」と「高田まちかど交流館」が、休憩や交流の場を設置。 ・本町商店街の駐車場やアーケードなどの共用設備の更新や改装を実施。 |
| | ○インバウンドの来街増加につながる仕掛けづくり ・冬のスキーを主目的とした外国人観光客の受け入れ環境の充実 ・まちの歴史や文化をいかした誘客 他 | △ | ・創業100年超の老舗店舗を生かしたPR活動などを展開。 ・インバウンド対応は一部の団体・事業者に留まる。また、コロナ禍により、やむなく活動が停滞。 |
| | ○個別店舗の利便性の向上 ・最寄品の品揃えの充実 ・入店・滞在しやすい店舗環境の整備 ・営業時間帯や休日等の見直し検討(早朝・夜間営業等) 他 | △ | ・個別店舗において品揃えの工夫などはあるものの、商店街全体としての利便性向上に向けた検討が必要。 |
| | ○商店街の価値を高める繁盛店づくり ・支援機関やコンサルタントを活用した店舗づくり ・商店街を挙げた繁盛店の育成とPR・情報発信 ・地区内の不足業種・業態や人気ブランド等の誘致 他 | ○ | ・商店街SNSを活用し、各店舗の商品やイベントなどを積極的に発信。 ・FC飲食店が商店街イベントに参加し、相乗効果を発揮。 |
| | ○商店街の力を底上げする商店間の連携 ・個別店舗間の情報共有(SNS、紙媒体の活用) ・他店舗情報の相互発信 他 | ○ | ・商店間の情報共有や連携を深めるため「かわら版」を発行。 ・商店街SNSやHPにおいて、店舗紹介やイベントを発信。 |
| 基本方針2 エリア間の | ○エリア全体を回遊する機会の創出 ・エリア間の連携によるイベント開催 ・エリア共通の情報発信ツール(SNS、HP等)の供用 ・エリア回遊者への特典やサービス付与の検討・実施 他 | △ | ・商店街SNSと各店舗や団体のSNSを相互フォローし、情報発信を連携。 ・SAKEまつり等で街なか回遊イベントが実施されるも、試行段階と言える。 |
| | ○各エリアで取組を進める商店街、商工団体、市民団体等の連携促進 ・情報交換や交流の場づくり ・SNSを活用した地区全体の情報共有 ・エリアを超えた買い物、施設見学モデルコースの検討 ・他のエリアに関する学習会の開催 他 | ○ | ・関係組織による全体会議、広報販促委員会等の会議を開催。 ・若手店主やまちづくり会社が参加する勉強会や先行事例視察を実施。 |

| | | | |
|------------------------------|---|---|---|
| 連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ○各エリアにおけるエリア内及び他エリアへの案内機能 ・公共施設における案内機能の強化 ・拠点施設を活用したエリア情報の発信 ・地区公認の案内場所、店舗等の設置 ・チラシ、情報誌等の共有と配布 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・直江津や上越妙高駅周辺などのエリアと連携し、ガイドマップを作成・配置。 ・観光案内所等に観光案内やパンフレットを配置、イベントポスターを掲示。 |
| 基本方針③ 居住環境の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ○まちの将来像や在り方についての議論・検討 ・モデル地区におけるワークショップの開催 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区において、ワークショップ等を実施。 ・各種支援制度の運用を開始。 |
| （両地区共通） まちの力を維持・強化するための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○地区内居住人口の維持・増加 ・居住環境の実態把握 ・地区内におけるモデル的な取組の実施 ・街なか居住促進施策の具体化検討 ・街なかへの事業所誘致による昼間人口の増加 他 | △ | <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか居住モデル事業等が実施されているが、居住人口の維持には至っていない。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○商業機能の維持・拡充 ・後継者の有無、事業承継意向の実態調査 ・事業承継に関する個別相談会、セミナーの実施 ・商店街における最適なテナント構成（業種業態）の実現 ・最寄品取り扱い店舗の配置替え（利用者目線の配置バランスの適正化） ・地区内に不足する業種や業態の商業店舗の誘致 ・町家の商業店舗への転用促進 他 | △ | <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査や個別相談会、町家のリノベーションなどの取組が行われているが、事業所の減少や空き店舗の発生が継続している。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○空き地、空き家、空き店舗の解消 ・空き地、空き家、空き店舗の詳細把握 ・街なかへの起業、出店支援 ・街なか居住促進施策との連携 ・空き地、空き家、空き店舗見学会の実施 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・市の補助金を活用し、8店が新規出店（R2～5年度）。 ・空き店舗の状況を調査し、Webサイトにより情報発信。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の利便性向上 ・市街地を経由する公共交通の維持 ・公共交通乗継ぎの円滑化 ・街なかの歩行環境の改善 ・公共交通待合所の機能拡充（憩い、娯楽、買物など） ・地域と公共交通機関との連携 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な運行のため、鉄道事業者及びバス事業者を支援。 ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり会社の機能強化 ・事業コーディネート能力の向上 ・地区内企業へのコンサルティング力の向上 ・商店街、商工団体への収益事業の提案及び実施支援 ・地区内への商業店舗、事業所誘致 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・商店街や市民団体等の事業立案やイベント運営等をサポート。 ・補助金の申請事務等を支援。 |

(2) 直江津地区

| 区分 | 第3期プログラムにおける取組の例示 | 現況 | 実施内容等 |
|----------------------------------|---|----|---|
| 基本方針1 拠点施設の来街者に街なか回遊を促す仕掛けの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○イベント開催やサービス提供を通じた回遊機会の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・商店街、店舗、拠点施設等の連携による回遊者への特典付与 ・回遊イベントの開催、希少な商品や人気グルメ等の販売 ・拠点施設をつなぐ二次交通の充実 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・うみがたり周年イベントや鉄道まつりなどを開催し、グルメ販売やスタンプラリーを実施、周遊バスを運行。 ・直江津まちづくり活性化協議会が、クーポン付きガイドマップを発行、拠点施設に設置。 ・直江津商店連合会がうみがたり年間パスポート特典事業を実施。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○拠点施設間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の拠点施設による連携企画の実施 ・SNSを活用した拠点施設間の情報共有 ・拠点施設相互の連携による街なか情報の発信 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・直江津まちづくり活性化協議会が、クーポン券付きガイドマップを発行。 ・うみがたり、D51 レールパーク、直江津ショッピングセンター等に配置。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○街なか回遊促進に向けた商店街、商工団体、市民団体等の連携促進 <ul style="list-style-type: none"> ・若手人材の情報交換や学習会、交流の場づくり ・SNSを活用した地区全体の情報共有 ・拠点施設を活用した買い物、施設見学モデルコースの検討 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・直江津商店連合会が、うみがたり年間パスポート特典事業を実施。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○まちのイメージの共有と発信 <ul style="list-style-type: none"> ・まちのイメージの共有化(鉄道、港、北前船、マゼランペンギンなど) ・イメージ戦略の検討・試行 ・多数存在している街歩きマップの統一化の検討 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道や水族館等をテーマとした印象深いイベントが継続されており、一定のイメージの共有化が図られている。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○名店・名物・名所・旧跡等のPR <ul style="list-style-type: none"> ・各店舗の魅力調査と発信方法の検討 ・名物のヒト、モノ、コトの集約・発信 ・名所・旧跡に関する学習会の開催 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・直江津まちづくり活性化協議会が、みどころガイドを発行。 ・まちおこし直江津が“街歩き”を実施。 ・直江津鉄道振興会が鉄道をテーマに講演会を開催。 |
| 基本方針2 街なかの受け入れ環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ○街に来やすい、滞在しやすい環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所や若者の交流の場づくり ・休憩場所、待ち合わせ場所、トイレ等の提供 ・駐車場の利用環境の改善 他 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・無印良品直江津が店内にコミュニティスペースを開設。 ・交流・観光案内の拠点として、なおえつ茶屋を運営。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○街なかの目玉づくり <ul style="list-style-type: none"> ・互の市広場、ライオン像のある館等の有効活用 ・アンテナショップの魅力向上とPR ・若者や学生を街なかに呼び込む仕掛けの検討・実施 ・商店街を挙げた繁盛店の養成とPR・情報発信 ・地区内の不足業種・業態や人気ブランド等の誘致 など | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・互の市の再開に当たり、中山間地の農産物等を販売。 ・ライオン像のある館で様々な貸館イベントを実施。 ・直江津ショッピングセンター内に無印良品直江津が出店。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○街なかにおける案内機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設における案内機能の強化 ・拠点施設を活用した街なか情報の発信 ・地区公認の案内場所、店舗等の設置 ・チラシ、情報誌等の共有と配布 など | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・直江津まちづくり活性化協議会が、みどころガイドを発行。直江津ショッピングセンター、うみがたり、D51 レールパーク、直江津学びの交流館、観光案内所等の拠点施設に配置。 |

| | | | |
|--|--|----------|---|
| <p>基本方針3 居住環境の改善</p> | <p>○まちの将来像や在り方についての議論・検討 ・モデル地区におけるワークショップの開催 他</p> | <p>○</p> | <p>・モデル地区において、ワークショップ等を実施。 ・各種支援制度の運用を開始。</p> |
| <p>(両地区共通) まちの力を維持・強化するための取組</p> | <p>○地区内居住人口の維持・増加 ・居住環境の実態把握 ・地区内におけるモデル的な取組の実施 ・街なか居住促進施策の具体化検討 ・街なかへの事業所誘致による昼間人口の増加 他</p> | <p>△</p> | <p>・まちなか居住モデル事業等が実施されているが、居住人口の維持には至っていない。</p> |
| | <p>○商業機能の維持・拡充 ・後継者の有無、事業承継意向の実態調査 ・事業承継に関する個別相談会、セミナーの実施 ・商店街における最適なテナント構成(業種業態)の実現 ・最寄品取り扱い店舗の配置替え(利用者目線の配置バランスの適正化) ・地区内に不足する業種や業態の商業店舗の誘致 ・町家の商業店舗への転用促進 他</p> | <p>△</p> | <p>・各種調査や個別相談会などの取組が行われているが、事業所の減少や空き店舗の発生が継続している。</p> |
| | <p>○空き地、空き家、空き店舗の解消 ・空き地、空き家、空き店舗の詳細把握 ・街なかへの起業、出店支援 ・街なか居住促進施策との連携 ・空き地、空き家、空き店舗見学会の実施 他</p> | <p>○</p> | <p>・市の補助金を活用し、12店が新規出店(R2~5年度)。 ・空き店舗の状況を調査し、Webサイトにより情報発信。</p> |
| | <p>○公共交通の利便性向上 ・市街地を経由する公共交通の維持 ・公共交通乗継ぎの円滑化 ・街なかの歩行環境の改善 ・公共交通待合所の機能拡充(憩い、娯楽、買物など) ・地域と公共交通機関との連携 他</p> | <p>○</p> | <p>・安全・安心な運行のため、鉄道事業者及びバス事業者を支援。 ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上。</p> |
| | <p>○まちづくり会社の機能強化 ・事業コーディネート能力の向上 ・地区内企業へのコンサルティング力の向上 ・商店街、商工団体への収益事業の提案及び実施支援 ・地区内への商業店舗、事業所誘致 他</p> | <p>○</p> | <p>・商店街や市民団体等の事業立案やイベント運営等をサポート。 ・補助金の申請事務等を支援。</p> |

2 第3期プログラム期間中の各種取組主体へのフォローアップ(現状評価と今後の方向性の確認)

(1) 令和2年度フォローアップの概要

- ・ 商工団体や市民活動団体（高田地区 20 団体、直江津地区 15 団体）を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和2年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認。
- ・ 第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 20 団体中 13 団体（65%）、直江津地区で 15 団体中 6 団体（40%）となり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体があった一方で、約半数の団体が取り組むことができなかった。
- ・ 取組事例としては、高田地区では、人数や来場時間を制限した事前予約制による本町ハロウィンまつりの開催や、在日外国人をターゲットとした高田本町クリアファイル(英語表記)の作製・配布によるPR事業などに取組まれた。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」の発行や、まちなかの主要な花壇への「青い花」の植樹による景観整備や魅力の向上などに取り組まれた。
- ・ 一方で、「取り組んでいない」と回答した団体の理由・課題としては、「コロナ禍により集客事業の実施が困難であったこと」や「事業の担い手の不足や高齢化」といった理由・課題が挙げられた。
- ・ 令和3年度に取り組みたいことや検討していることとしては、多くの団体から「コロナ前に実施していた事業を実施したい」という声があった。このほか、「アーケードを散歩するペット愛好家をターゲットとした事業の検討」や「関係他団体との交流や連携を強化したい」など中心市街地の活性化に向けて前向きに検討している団体もあった。
- ・ また、中心市街地の活性化に向けた意見として、空き店舗解消に向けた出店希望者や利活用者への情報発信の強化や、物件調査費や改装費などテナント誘致に係る支援の強化を求める声があった。
- ・ 今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携を図りながら、団体の取組の実現に向け支援していくことにより、両地区の目指すまちなかの将来像の実現を目指していく必要がある。
- ・ 併せて、中心市街地で活動する商工団体や市民活動団体の掘り起こしを進めるとともに、各団体の活動について相互に情報共有し連携を図っていくようプラットフォームづくりを行う必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和2年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

| 団体名 | 内容 |
|------------------------|---|
| 高田本町まちづくり(株) | 人数や来場時間を制限した事前予約制による本町ハロウィン祭りの開催 |
| インバウンドで本町を盛り上げるおかみさんの会 | 在日外国人をターゲットにした英語表記の「高田本町クリアファイル」を作製・配布することによるPR |
| 城下町高田花ロード実行委員会 | 観桜会時期に高田城址公園の枝折れ桜を商店街に飾るなど、エリア間の連携によるまちなか回遊の促進 |
| 街並みFOCUS | 景観保全のためエアコン室外機の格子作りや雁木柱色塗り実施 |
| 直江津まちづくり活性化協議会 | 直江津見どころガイド&マップの発行・配布によるまちなか回遊の促進 |
| みずいろ実行委員会 | 景観の整備や魅力向上のため、まちなかの主要な花壇へ青い花を植樹する「青い花の道」を実施 |

○令和3年度に取り組みたいことや検討していること

| 団体名 | 内容 |
|--------------|--|
| (株)イレブンビル | 魅力ある店舗となるべく、使いやすい駐車場整備、テナント販売商品に対する専門家の指導の教授 |
| (株)三井企画 | ペット愛好家をターゲットとした事業の検討 |
| 高田寺町まちづくり協議会 | 「浄興寺大門通り協議会」や新たに発足された「高田寺町モミジの会」との交流・連携 |
| 直江津駅前商店街振興組合 | 互の市に代わる定期的な催しの企画・開催 |

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

| 団体名 | 内容 |
|-----------------|---|
| お馬出しプロジェクト | 構成員の高齢化・人手不足の解消を目的に「まちづくり応援隊」のような人材バンクができないか |
| 上越市本町四丁目商店街振興組合 | 空き店舗に新規出店を検討している方や利活用者に対しての情報発信の強化が必要 |
| 直江津商店連合会 | 空き店舗解消に向けた商店街組織を対象とした物件調査費や改装費などテナント誘致に係る支援の強化が必要 |

(2) 令和3年度フォローアップの概要

- ・商工団体や市民活動団体（高田地区 20 団体、直江津地区 15 団体）を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和3年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で20団体中18団体（90%）、直江津地区で15団体中8団体（53%）であり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体が多い結果となった。
- ・しかしながら、コロナ禍により取組の規模の縮小や取組そのものを中止した団体も多かったほか、コロナ禍で落ち込んだ売上や集客に対応する取組が多く、本来取り組みたい内容が思うように実施できていない状況が多くみられた。
- ・取組事例としては、高田地区では、プレミアム付商品券の発行や季節に合わせたイベントを実施し、誘客を図ったほか、雁木の柱の色塗りや風鈴を飾るなど、景観の整備にも取り組まれた。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」、「直江津地区商店街ショッピングガイド&マップ」の発行や、商店街の大売り出しイベント、互の市広場における「パン&スイーツまつり」イベントの開催など、直江津の魅力発信と街なか回遊の促進に取り組まれた。
- ・一方で、「取り組んでいない」と回答した団体の理由・課題としては、「コロナ禍により集客事業の実施が困難であったこと」や「会員の高齢化や環境の変化による熱意と意識の低下」といった理由・課題が挙げられた。
- ・令和4年度に取り組みたいことや検討していることとしては、DX（デジタルトランスフォーメーション）を取り入れた事業の実施や関係団体と連携した取組の実施のほか、令和3年度から徐々に事業を再開している団体からは「令和3年度に実施した事業を継続していきたい」という声が多くあった。
- ・また、中心市街地の活性化に向けた意見として、マンション建設などの街なか居住の推進やテナント誘致の支援を求める声があったほか、中心市街地に進出した新しい業種やビジネスとの連携や環境の整備に取り組むたいとの声があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携を図りながら、団体の取組の実現に向け支援していくことにより、両地区の目指すまちの将来像の実現を目指していく必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和3年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

| 団体名 | 内容 |
|---------------------|---|
| 本町 3.4.5 商店街振興組合連合会 | プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用して季節に合わせたイベントを行った。特に新たに実施した「春のパン祭り」は大盛況であった |
| (株)イレブンビル | 広場、アーケード内にて野菜や果物の継続的な販売やジャズ等の音楽演奏会イベントを開催し、テナントの集客にも波及 |
| 越後高田・雁木ねっとわーく | 雁木の軒下に風鈴を飾り、景観整備を図ったほか、「雁木の魅力写真コンテスト」を実施し、応募作品を活用して雁木を紹介する冊子を2,000部発行することで、雁木の魅力を市内外に発信した |

| | |
|----------------|--|
| 上越オープンガーデン愛好会 | 上越オープンガーデンと花めぐりの実施と上越遠足ガーデンを実施し、花を介した人々の交流の創出と、美しいまちづくりに貢献 |
| 直江津まちづくり活性化協議会 | 「直江津見どころガイド&マップ 2021 年度版」、クーポン付きパンフレット「お得！名店巡り」の発行・配布による街なか回遊の促進 |
| 直江津菓子組合 | 11 月 3 日に互の市広場にて「パン & スイーツまつり」イベントを開催し、約 5,000 人が来場 |
| みずいる実行委員会 | うみまちアート会期中に「Tシャツアート」イベントをエルマールにて開催 |

○令和 4 年度に取り組みたいことや検討していること

| 団体名 | 内容 |
|-------------|---|
| 本町ゆめカード協同組合 | スマートフォンを活用したポイント事業 |
| 高田駅前通り雁木の会 | 高田駅振興会やトキめき鉄道と連携した駅前広場を含む高田駅前通りの活性化につながる取組の実施 |
| 直江津商店連合会 | 直江津屋台会館の利活用による加盟店の商品販売 |

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

| 団体名 | 内容 |
|-----------|--|
| お水鉢プロジェクト | 新しい商店街の使い方の検討や、商店街に入ってきた新しい業種との連携による活性化 |
| 雁木のまち再生 | 小規模ながらもシェアオフィスやアトリエ、スタジオなど、少人数で省力化された「空間と時間を利用する」ビジネスの創造 |
| 直江津商店連合会 | 空き店舗の解消に向け、商店街組織を支援対象としたテナント誘致支援補助事業の創設 |

(3) 令和 4 年度フォローアップの概要

- ・商工団体や市民活動団体（高田地区 22 団体、直江津地区 18 団体）を対象に「第 3 期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和 4 年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第 3 期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 22 団体中 22 団体（100%）、直江津地区で 18 団体中 13 団体（72%）であり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体が大多数となった。
- ・取組事例としては、高田地区では、プレミアム付商品券の発行や季節に合わせたイベントを実施して誘客を図ったほか、雁木の柱の色塗りなど、景観の整備にも取り組んだ。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」の発行や「直江津まちなか回遊促進プロジェクト」Web サイトの開設、プレミアム付商品券発行事業、直江津地区で開催された各団体のイベントでの連携など、直江津の魅力発信とまちなか回遊の促進に取り組んだ。
- ・一方で、「取り組んでいない」と回答した団体もあり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。この点は、他の団体においても今後の課題としている。
- ・令和 5 年度に取り組みたいことや検討していることとしては、高田地区と直江津地区の回遊を促す事業の実施やコロナ禍により取組の規模の縮小または中止していたイベントをコロナ禍前の規模で開催したいという回答があった。
- ・また、中心市街地の活性化に向けた意見として、テナント誘致や空き店舗解消に向けた支援を求めるものや、季節ごとのイベントに合わせて商店街へ誘客する企画を行いたいとの回答があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和4年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

| 団体名 | 内容 |
|------------------------|---|
| 本町 3.4.5 商店街振興組合連合会 | プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用して季節に合わせたイベントを行った。また、Instagram の投稿を強化し、フォロー一数の増加につなげた |
| 越後高田・雁木ねっとわーく | 「雁木の魅力写真コンテスト」を開催し、多くの場所で写真の展示を行い、雁木の魅力を市内外に発信した |
| 上越オープンガーデン愛好会 | 「オープンガーデンと花めぐり」と「遠足ガーデン」を実施し、花を介した人々の交流を促し、美しいまちづくりに貢献した。 |
| 街なみ FOCUS | 雁木柱の色塗りや雁木上の冷暖房室外機に格子を取り付けるなど景観保全のための作業を行った |
| 直江津まちなか回遊促進プロジェクト実行委員会 | 当プロジェクトの Web サイトの開設、街なかのバス停に Web サイトへアクセス可能な QR コードの設置による街なか回遊の促進 |
| なおえつ うみまちアート実行委員会 | うみまちアート 2022 の開催 |

○令和5年度に取り組みたいことや検討していること

| 団体名 | 内容 |
|----------------------|-----------------------------------|
| 高田駅前通り雁木の会 高田駅振興会 | 高田・直江津商店街の連携によるトキめき鉄道を利用したスタンプラリー |
| (株)イレブンビル | 広場を有効活用した、ジャズやポップ等の音楽演奏会イベント |
| 直江津駅前商店街振興組合 | 「互の市」の復活を契機とした、まちなか回遊や街の情報発信等 |

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

| 団体名 | 内容 |
|------------------|---|
| 高田本町まちづくり(株) | 空き店舗等の中心市街地遊休資産の活用に向け、出店相談窓口の設置や十分な空き店舗調査が可能な予算編成 |
| 高田駅前通り雁木の会 | 季節ごとのイベント(春の観桜会、夏の観蓮会、秋の越後・謙信SAKE まつり、冬のレルヒ祭)に合わせた本町商店街への観光客の誘導企画 |
| JR 東日本 OB 会直江津支部 | D51 レールパークや水族博物館の入場券に商店街割引券や福引券を添付するなど、まちなか回遊を促進する施策を展開する。また、直江津の特徴ある名物を作り出す。 |

(4) 令和5年度フォローアップの概要

- ・令和6年3月に、商工団体や市民活動団体(高田地区23団体、直江津地区18団体)を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和5年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で23団体中18団体(78%)、直江津地区で18団体中14団体(78%)であり、大多数の団体が基本方針に基づいた取組を実施した。
- ・取組事例としては、高田地区では、季節に合わせたイベントの実施や、直江津地区及び上越妙高駅周辺と連携してプレミアム付商品券を発行し誘客を図ったほか、町家を改修した新規出店が見られた。直江津地区では、近年開催していなかったイベントを復活させ、また、「うみがたり5周年記念イベント」を開催するなどして、にぎわい創出とまちなか回遊の促進に取り組んだ。

- ・両地区の空き店舗解消に向けた取組として、商店街の物件情報を取りまとめ、Webサイトをリニューアル公開した。
- ・こうした取組の一方で、「取り組んでいない」と回答した団体は両地区合計で41団体中9団体(22%)あり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。
- ・令和6年度に取り組みたいことや検討していることとしては、能登半島地震などを受け、被害のあった施設の補修や、防災に関する啓発イベントを実施したいという回答があった。
- ・また、中心市街地活性化に向けた意見として、他の団体やイベントとの連携や、通年観光計画に合わせた取組など、各団体の垣根を越えた事業の実施を求めるものや、若者を対象とした出店支援との回答があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和5年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

| 団体名 | 内容 |
|-------------------------------|--|
| 本町三丁目、四丁目、五丁目商店街振興組合 | アーケード、駐車場、音響などの共有施設の改修を行い、来訪者の利便性の向上を図った。 |
| 本町345商店街連合会 | 直江津地区や上越妙高駅周辺と連携したプレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用した季節に合わせたイベントを行った。 |
| 雁木のまち再生 | 雁木町家の空き家を新規取得・改修し、オフィスやギャラリー、住宅として提供した。 |
| 直江津まちづくり活性化協議会の関係者等で組織する実行委員会 | 「うみがたりオープン5周年記念イベント」や「なおえつ鉄道まつり」を開催し、にぎわい創出やまちなか回遊の促進を図った。 |
| 直江津駅前商店街振興組合 直江津西部商工振興会 | 休止していた「互の市」及び「安国寺稻荷神社・府中八幡秋祭り協賛イベント」を開催し、活性化につなげた。 |

○令和6年度に取り組みたいことや検討していること

| 団体名 | 内容 |
|---------------|--|
| 越後高田・雁木ねっとわーく | 雁木の写真コンテストの実施や通年ガイドができる体制づくり。 |
| (株)イレブンビル | 高田商業高校 Rikka とコラボしたイベントの開催。 |
| 直江津駅前商店街振興組合 | 「互の市」はもちろん、その他事業も含め「地域住民の満足度向上（居住推進・生きがいアップ）や「来街者の街への好感度向上（街のファンづくり）」を目指す。 |

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

| 団体名 | 内容 |
|---|--|
| 越後高田・雁木ねっとわーく NPO 法人高田警女の文化を保存・発信する会 | 町家を利用する若者の出店に対する支援が必要。大町5丁目を中心に景観整備が進んでおり、若者の店舗が増えているので、この動きを本町6、7丁目まで広げていく。 |
| 浄興寺大門通りまちづくり協議会 (寺町2丁目町内会) | 通年観光計画にあわせ、行政・まちづくり協議会・企業が一体となり、協力体制や連絡を密にし、市街地の活性化に向けて努力してはどうか。 |
| 百年商店街実行委員会 | イベントを企画する時に集客の相乗効果を目的として、他の団体やイベントと連携することは有効である。 |